

日本列島 離島巡り

今回は、美しい海に囲まれ、ゆったりとした時間が流れる島、北海道の奥尻島をご紹介します。

奥尻島は、北海道南西の日本海側に浮かぶ周囲67kmほどの島です。1993年7月に発生した北海道南西沖地震で大きな被害を受けた島南端の青苗地区には、奥尻島津波館が建てられており、震災の「記憶と蘇生」を感じることができます。



奥尻島は6、7月が最盛期のウニ丼が名物ですが、アワビ狩り体験もできます。漁師さんと一緒に青苗漁港から漁船に乗りこみ、自分で採ったアワビを海の上で食べられます。採れたての旨さは最高です。期間は4月下旬から10月末頃まで、所要時間は40分程度です。一人3000円でアワビを2個採ることができます。



北海道の離島というと極寒の地を想像しがちですが、奥尻島は北海道本島と比べ、海に囲まれている分暖かいといいます。西海岸ではワイン用のブドウを育てており、ワイナリーもあります。潮騒を聞いて育ったブドウから作るワインは、奥尻の海の幸に合うことでしょう。



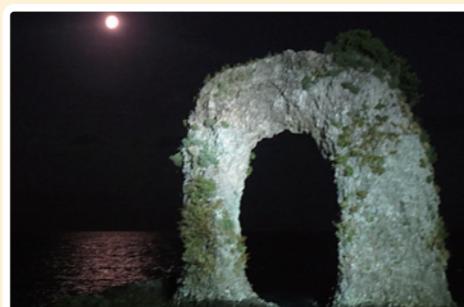
ニュースレター等に関するお問い合わせは

公益財団法人 国土地理協会 〒102-0094

東京都千代田区紀尾井町3番1号
TEL 03-5210-2181 FAX 03-5210-2184
URL <http://www.kokudo.or.jp>



また、奥尻島では6月にムーンライトマラソンを開催しています。今年で第4回となる奥尻ムーンライトマラソンはレースの途中から日暮れとなり、月と漁火を見ながら走ることができます。前夜祭・後夜祭も行われ、「奥尻らしく」をテーマに、ウニ、アワビ等の島の味覚やステージイベントなど、マラソン以外の楽しさも満載のイベントとなっています。



News Letter

'17 Spring. 春号

地名データベースなら 国土地理へ

TEL 03-5210-2181 FAX 03-5210-2184 <http://www.kokudo.or.jp>

Japan Geographic Data Center 公益財団法人 国土地理協会

元号が変更?～昭和～平成～そして…?

2016年7月13日、天皇陛下が天皇の位を生前に皇太子さまに譲る「生前退位」のご意向を示されたとの報道が流れ、日本中が衝撃に包まれたことはまだ記憶に新しいことでしょう。その後8月8日に天皇陛下が「おことば」を読み上げるビデオ映像が公開されました。以降、憲法改正や皇室典範改正の是非、様々な問題点について活発に議論がされております。政府も天皇陛下が2018年12月31日をもって退位し、いまの皇太子様が2019年1月1日に新天皇として即位する方向で法整備の検討に入っているようです。

国民生活への影響を最小限とするには元日の譲位が望ましいとの判断から、上記のように2018年（平成30年）をもって生前退位が行われ、2019年（平成31年）1月1日から新年号（新元号）に変わる方向で検討されているようですが、そこで気になるのが次の元号が何になるか、ということです。役所などの書類、カレンダーなど国民の生活に密接に関わる元号は誰によって、どのように決められるのでしょうか。昭和から平成に改元された際のことを振り返ってみたいと思います。

1989年（昭和64年）1月7日、昭和天皇崩御の当日に有識者8人で構成される「元号に関する懇談会」が開かれ、更に衆参両院正副議長に3つの候補を示し意見を求めた後、臨時閣議において、政府が新元号を正式に決定しました。当時の内閣官房長官であった小渕恵三氏が総理大臣官邸で記者会見を開き、「平成」と書かれた額を掲げるシーンを記憶されている方は少なくないでしょう。同氏がその後「平成おじさん」と呼称されるようになるほど、元号変更は国民的な注目を集めることなのです。

ちなみに、当時の元号変更議論にあたり「平成」のほかに示された2つの候補は「修文（しゅうぶん）」と「正化（せいか）」です。しかし、ローマ字表記の頭文字が「昭和（しょうわ）」（Showa）と同じ「S」になるので不都合ではないかという意見が出たため、ローマ字の頭文字が「H」である「平成（へいせい）」（Heisei）に全員一致で決まったという経緯があります。

元号と地名

さて、このようなプロセスを経て元号の変更は行なわれましたが、このことはその後の地名新設、変更に影響を与えたのでしょうか？「平成」という表記が使われている地名を調査してみました。その結果、全国で75の大字・町名（うち65の地名が現存）と、47の小字（うち29の地名が現存）で平成という表記を確認できました。

右の表は施行日付の古い順に抜粋した「平成」という地名表記が使用されている地名の一覧です。昭和から平成に元号が変更された1989年のうちに早速これだけの「平成」地名が新設されました。早いものは4月頃に施行されており、とても驚かされます。以降2016年までに多くの地名に「平成」という表記が使われています。

次の表は「平成」がつく地名の中でも多く使われている地名表記とその数を集計した表です。そのものぞばり「平成」という地名がやはり圧倒的に多いという結果になりましたが、平成町、平成台のような地名も見受けられました。

以上のように、元号が変更になると全国で地名となり、後世まで伝えられていくようです。このことは昭和、大正など平成以前の元号でも同様のことです。

そんな中、新元号は2018年（平成30年）

前半までに発表される予定です。今後も議論の行方に注目し、続報として本紙面でもご紹介できたらと思います。

施行時期	市区町村	地名表記
1989年4月	神奈川県横須賀市	平成町（1~3丁目）
1989年4月	新潟県小千谷市	平成（1・2丁目）
1989年8月	三重県松阪市	平成町
1989年9月	静岡県三島市	平成台
1989年11月	岐阜県羽島郡岐南町	平成（1~7丁目）

※1989年 = 平成元年

順位	地名表記	地名数
1位	平成（へいせい）	50個
2位	平成町（へいせいまち／ちょう）	25個
その他	平成台、平成新田 等	各少數

2016年の地名変更情報

2016年中は市町村単位の新設・変更という点では宮城県の富谷町が富谷市になる「市制」の施行がありました。そしてそのほかにも全国で多くの地名新設、変更が実施されました。地名変更が発生する時期というのは市町村議会の開催・運営状況次第であるのでしょうかが、2016年においては年度が変わる前後の1~4月と、10、11月の秋頃にかけて多く発生しました。また、昨年に限らず例年同時期に地名変更が多く発生する傾向がみられます。

本紙2016年春号で、2015年中の「ひらがな・カタカナ地名増加」についてご紹介いたしましたが、今回は2016年における「ひらがな・カタカナ地名増加」の結果をご紹介いたします。宮城県東松島市で「あおい」、茨城県つくば市で「みどりの」、千葉県野田市で「なみき」、そして静岡県静岡市葵区で「あさはた」というひらがな地名が新設されました。

これらは住居表示の実施によって新設されたのですが、住居表示実施に際して、新たな名称はできるだけ従来のものに準拠し、またできるだけ読みやすく、簡明なものにすることが定められております。このことから、旧地名は漢字表記であったものが住居表示によりひらがな表記になる、という事例が発生しています。また、新しい土地区画、そこでの生活が明るいものであるようにとの願いを込めて柔らかい印象を持つ名前が付けられる場合も多くあります。とは言え、ひらがな・カタカナ地名のブームは一旦落ち着きを見せており、という状態なのでしょうか。これからも地名の名付けとその土地にまつわる情報など合わせてご紹介してまいります。

新設地名施行月数ランキング

続いて、12ヶ月のうち、地名の新設が行なわれた月数が多い都道府県のランキングです。右表は過去3年間それぞれの年に新設地名の施行があった月数が多い上位3県です。ご覧の通り宮城県、愛知県などにおいては2ヶ月に1回以上のペースで地名が新設されています。宮城県に至っては2016年の1年間のうち殆どの月で地名が新設されていたことがわかります。富谷町が富谷市になった市制実施のほか、2011年に起きた東日本大震災からの復興、集団移転事業が続けられていることが、この結果に繋がっていると考えられます。

順位	2014年	2015年	2016年
1位	宮城県 8ヶ月	愛知県 7ヶ月	宮城県 10ヶ月
2位	愛知県 6ヶ月	埼玉他2県 5ヶ月	埼玉県 6ヶ月
3位	茨城他2県 5ヶ月	宮城他5県 4ヶ月	大阪府 5ヶ月

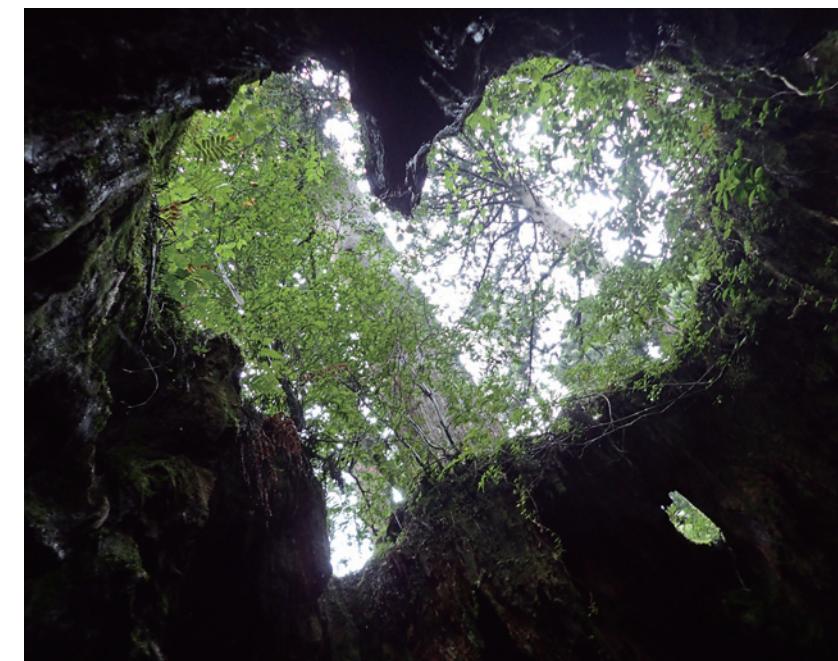
以上のように、平成の大合併以降、市町村合併の発生件数は減少しておりますが、全国各地で地名の新設事業が行われ、新たな地名が誕生、使用されています。弊社ではこのような地名新設、変更情報を独自に調査して、ホームページで情報公開を行なっているほか、『全国町・字ファイル』や『人口統計マスター』をはじめとした各種データベースとしてご提供しており、顧客管理やマーケティング等各種業務に幅広くご活用頂いております。各種関連商品の詳細に関するご質問、お問い合わせにつきましては、下記までご連絡下さいようお願い申し上げます。

お問い合わせ先：公益財団法人国土地理協会 情報サービス部 営業担当
電話：03-5210-2181 メール：chiiki-eigyou@kokudo.or.jp

地図地理クイズ！

今回は、第26回地図地理検定の問題からの出題です

問 下の写真は、何人の人が入れるほど大きな杉の古株の中から空を見上げたものです。空がハート型に見えるのが特徴です。標高約1000mの場所にあり、伐採時の樹齢は約3000年と推定されています。この杉に最も関係があるものはどれですか。
下の①～④のうちから1つ選びなさい。



①秋田杉 ②北山杉 ③吉野杉 ④屋久杉

は、屋久島の樟樹林で世界記録保持の古木です。この名前は、この木の形が心臓の形をしているからです。内部分は直径10cm程度で、樹齢は3000年といわれています。この木の周囲は、古木林、苔類の園地で、木の古木林、苔類の園地です。この木は、名前で「心臓の木」と呼ばれています。「心臓の木」は、2000年頃に植えられた木で、現在は、この木の周囲で、古木林、苔類の園地が整備されています。この木は、名前で「心臓の木」と呼ばれています。

%0.5 正解率

前回の問題は
ここでチェック！

第27回 地図地理検定のご案内 お問い合わせ先：地図地理検定事務局 03-3485-5417

- (1) 試験日 : 2017(平成29)年6月18日(日)
(2) 試験時間／問題数
地図地理検定(一般) : 13:30~14:20・4択形式25問・100点満点
地図地理検定(専門) : 15:00~16:00・4択形式25問50点、記述式10問程度・50点、100点満点
(3) 実施都市 札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・広島・福岡
(4) 受検資格 どなたでも受検できます。年齢等、一切の制限はございません。

地図地理検定 検索

受検料

リピーター割引、学生・生徒割引、併願割引があります。

	地図地理検定(一般)	地図地理検定(専門)	一般・専門の併願
基本受検料	3,000円	4,000円	5,000円
リピーター割引 学割**	2,000円	3,000円	4,000円

*1 リピーター割引は、第25回または第26回を受検された方。

*2 検定当日に、大学生・高校生は学生証や生徒手帳をご持参ください。

詳しくは地図地理検定ホームページ (<http://www.jmc.or.jp/chizuken/info.html>) をご覧ください。